

花ニ似タリ石南ノ類ニ非ズ別物ナリ、

〔草木六部耕種法十〕花石楠花ハ高山ニ繁生スルモノナルヲ以テ此ヲ植ルニモ其心得ヲ爲スベ

シ故ニ糞小便等ノ不淨ナル肥養ヲ用ルハ皆宜カラズ植地ハ山土野土ノ宜キハ論ズルニモ及

バズ若シ眞土赤土等ニ植ルニハ白沙ヲ等分ニ耕交キリマゼヘ少シク胡麻油糟鷄糞ヲ肥養ニシテ植ベ

シ日光ノ黒髮山ハ中禪寺ノ華表ヨリ上方絶頂ニ至ルマデ石楠花極テ多ク年々四五月花盛ノ

頃ハ上リ三里ノ間滿山皆花ニテ其美麗ナルコト吉野ノ櫻ト伯仲スベシ富士山及ビ奥州會津

萬歳山信濃御嶽紀州金峯山ニモ石楠花多シ大峯ノ石楠花ハ其葉細長クシテ挾竹桃ノ葉ニ似

タリ華ノ形色大抵日光ニ同ジ此ヲ根分スルモ移植ルモ三月九月ヲ良トス又枝梢等ヲ切テ玉

刺ヅノ法予〇佐藤〇接木ノ篇術ヲ行フモ能活モノナリ、

〔紀伊續風土記物産六上〕石楠ナ本草和名抄佐久奈無佐眞享本典藥式サクナムクサ下學集シヤク

別と混ゼリ辨ス

高野山及日高牟婁兩郡の山中に産す殊に大臺山に多し、

〔佐渡志五〕物産石南 方言シヤクナケ

深山ニ生ズ金北山ニ登ル人折來テ證トス、

〔拾遺和歌集七〕物名さくなむさ

むらさきの色にはさくなむさしの、草のゆかりと人もこそしれ

〔瓊囊抄六〕躑躅ヲツ、ジトヨム字體草木ニ縁无ハ如何、此問實ニ然リ本名ハ山榴也其花赤シ

テ柘榴セキリウニ似タル也是ヲ躑躅ツト云事ハ古事ニ依テ也申サバ異名ナルベシ千金翼方ト云本草ニ

云羊食此花躑躅シテ而斃故ニ云爾ト文選ニハ躑躅ツトタ、ズムトヨメリ注ニハ不安ノ貌ト云

立煩惱姿ナルベシ或ハフシマロプトヨム同心也羊此ノ山榴ノ花ヲ食テ立煩ヒテ斃死ケルヨ

如覺法師